

月形町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

月形町の公共交通は、路線バス等が運行しているが、自家用車依存と高齢化により、高齢者や学生等交通弱者の足の確保が課題となっている。また、町内を循環する交通は、スクールバス(3路線)のみであり、住民混乗も行っているが、登下校時の運行のため、帰路はハイヤーを利用するしかないなど、自家用車がない住民は生活面(買い物、病院等)で利用しにくい状況にある。

このことから、町では、令和4年4月より高齢者等交通弱者の町内での外出支援を目的としたおでかけハイヤー事業(ハイヤーを定額で利用できる制度)を実施し、課題解消に努めている。

通学、通院、買い物等の目的で、札幌市や当別町方面へ通じる路線バス(月形当別線)と、岩見沢市方面へ通じる路線バス(月形線)は地域間幹線系統として、また、接続する月形浦臼間の路線バス(地域内フィーダー系統 月形浦臼線)は、浦臼方面から月形高校への通学や、車を運転できない高齢者等を中心に月形町立病院への通院や温泉入浴などで利用されており、生活に必要不可欠な交通である。

今後の人口減少・高齢化を踏まえて、利用促進を図りながら、上記の地域間幹線系統や地域内フィーダー系統を確保・維持し、住民の生活交通手段を存続させていくことを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

【月形・浦臼間の平日利用者数】

R5年度(R4. 10. 1~R5. 9. 30)目標値:平日利用者数41人/日

令和5年度事業概要

月形浦臼線 浦臼駅~札幌内駅前~月形駅 主系統19.5km、副系統18.7km(朝の1便を月形高校生用に副系統を設定)
平日:5往復10便 土日祝日:4往復8便 1月1日運休 12月31日、1月2日、1月3日は土日祝日ダイヤで運行

【車両減価償却費等国庫補助】

月形浦臼線は令和2年4月から運行を開始した路線であり、当該路線を運行するための車両を手当てすることができないため、新たにワゴン車両(14人乗り)を1台導入した

地域公共交通の現況

【路線バス】

- ・北海道中央バス(株)(月形線1路線)
- ・新篠津村営バス(1路線)
- ・(有)下段モータース(月形当別線1路線)
- ・美唄自動車学校(株)(月形浦臼線1路線)

【ハイヤー】

- ・アオヤナギ観光バス(株)(はーとハイヤー)

【スクールバス】

- ・スクールバス一般混乗(3路線)

協議会開催状況

令和5年5月31日 第1回協議会を開催

- 月形町地域公共交通網形成計画の評価
- 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 月形当別線のダイヤについて
- 月形町地域公共交通計画の策定について

令和5年11月14日 第2回協議会を開催

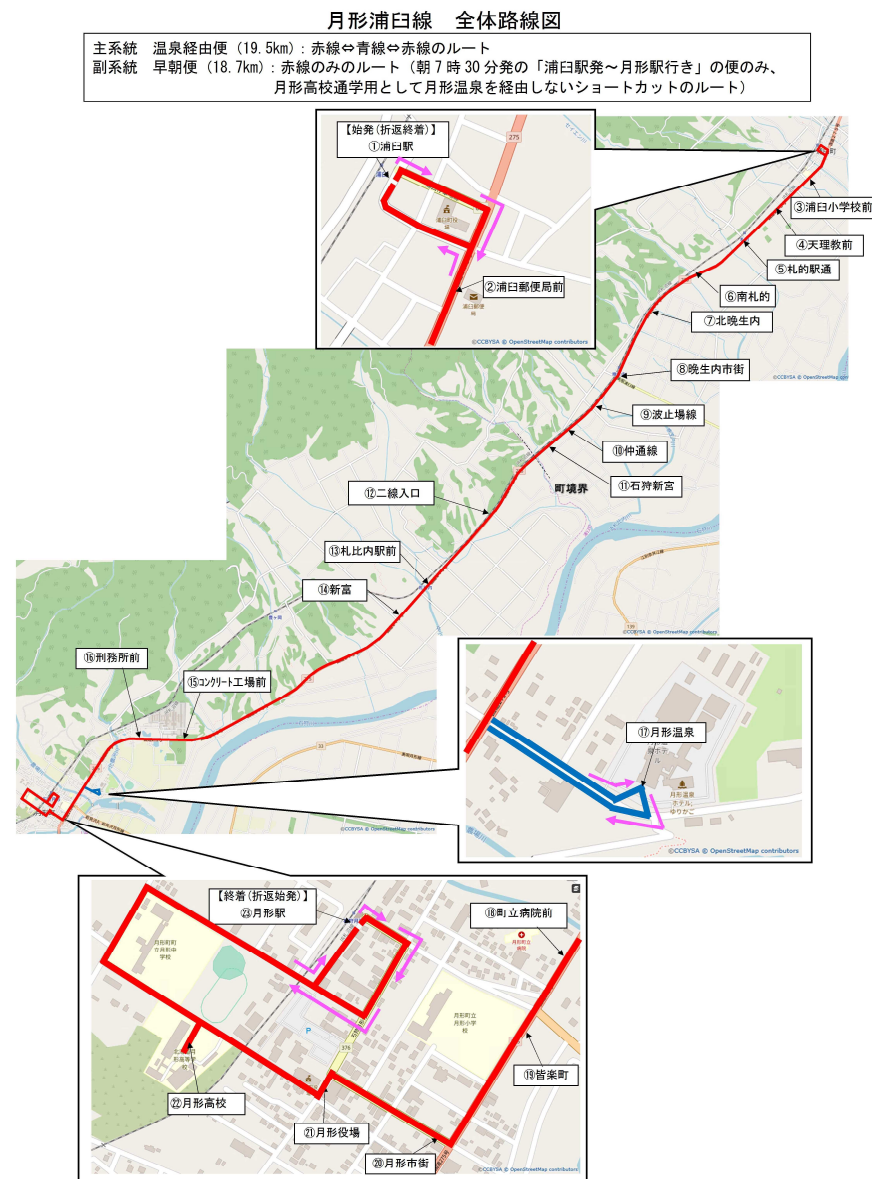
- 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
- 路線バスの協議事項について
- 月形町地域公共交通計画の策定に係る現況整理について

令和5年度事業の実施状況

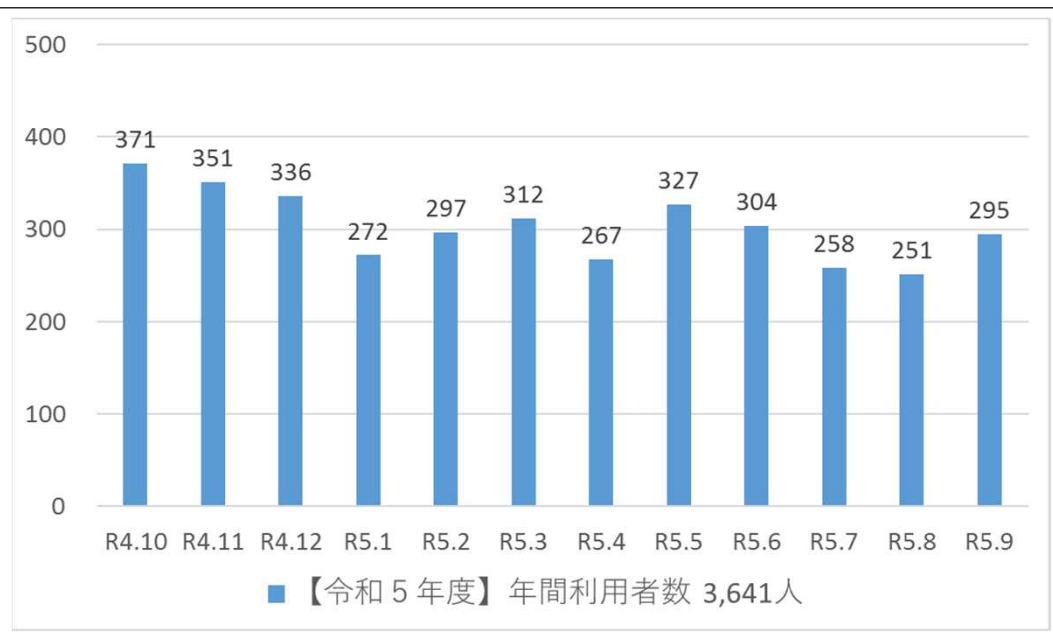
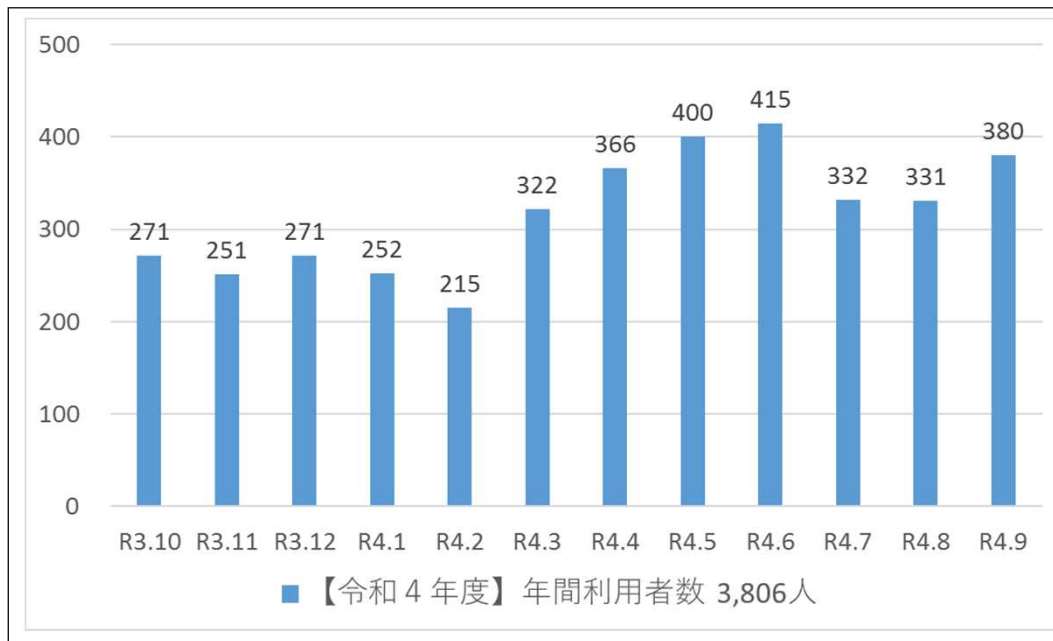
1) プロセス、創意工夫

- ・令和2年4月
JR札沼線の代替バスとして運行開始。
同じく代替バスの月形当別線と、月形駅での乗り継ぎ、北海道医療大学駅でのJRへ乗継ができる限りスムーズになるよう時刻を設定した。
- ・令和4年10月～令和5年9月(随時)
町内会の集会や各種団体の会議時に、新たに路線バスが運行していることや乗り方等について、説明を行った。
また、町広報紙でも公共交通を特集して掲載し、町全体に周知を行った。
- ・ダイヤ、路線図の周知方法
町内各施設に紙媒体で設置し、QRコードにより町ホームページやスマホアプリで閲覧できるように工夫している。
- ・役場1階に乗り継ぎ時に休憩することができる場を整備し、次のバスが来るまでの時間を過ごすことができるようにした。

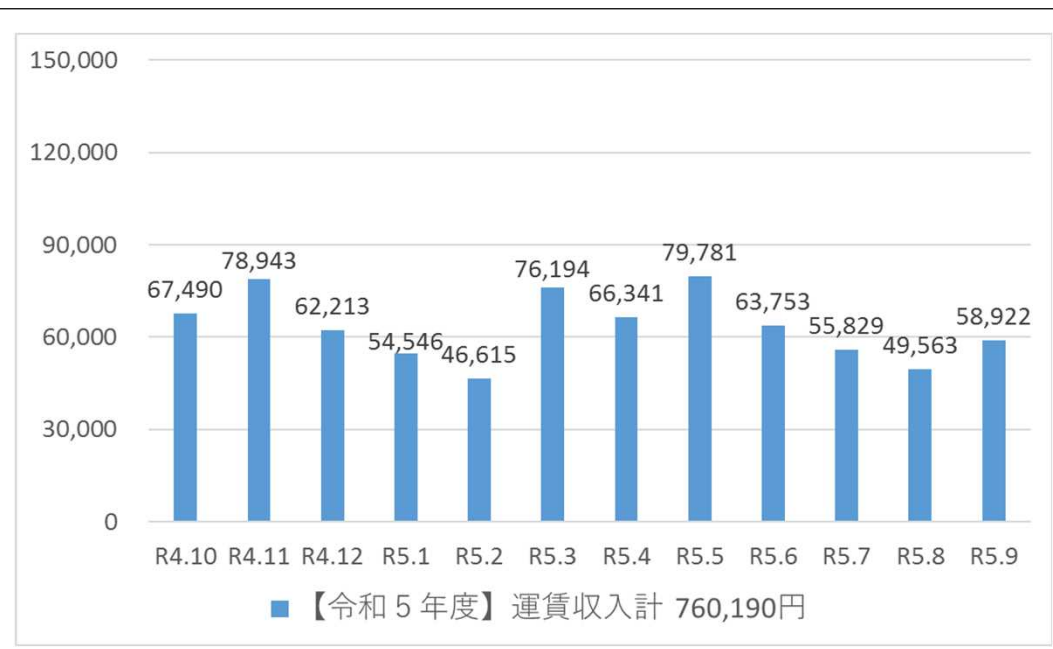
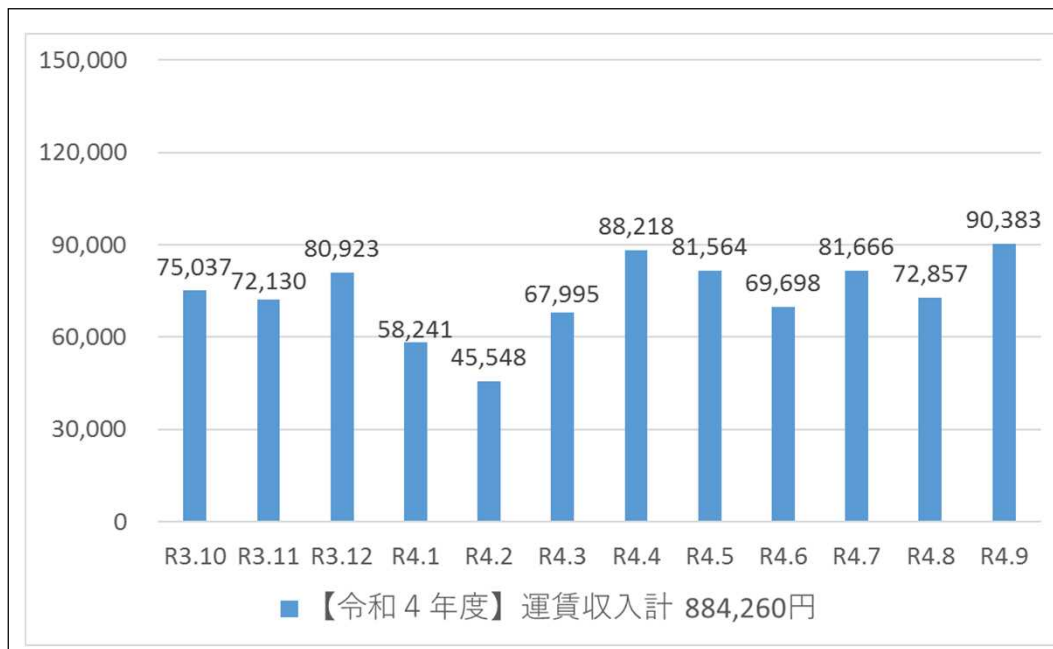
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

高校生以外の利用者ニーズ等を調査し、地域実情に沿った運行形態を検討していく。

6) 目標・効果達成状況

新型コロナウイルスの影響や月形高校に通学する生徒の減少により、平日輸送人員目標41人/日に対し、12人/日であった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)